

---

**最高やで。**

合格祈願者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

最高やで。

### 【著者名】

N4081Q

### 【あらすじ】

受験合格祈願小説です。

### 合格祈願者

えつと、これは一時のコナンと平次の友情コメディーです。  
軽く平次の誕生日ネタってことになつております。

「おこ服部——」

「ナンは、たまたま遊びに来ていた（もひるんアボなし）服部平次に声をかける。

「おへなんや~」

「お前や、おのー…なんだつけ。」

「はあ~おこ自分…そな、血ら話しかけといて忘れるなんてどんな悪こ記憶力しどんねん」

そうこうでナンを見ると

「うつさいだまれポンコツ。今思い出してんだから黙つて待つとか  
「んなーーっ！誰がポンコツやねん、ほんと口の悪こやつちやな。  
頭ぐるわあ」

そんな切れる服部を無視してナンせつねつてこる。

「あ、そうだそうだ」

「ああ~」

顔が引きつながらも、ナンの声で振り向く。

「おふとおき合つてよ」

「ひとつと少し不気味な（とこつか怖い）笑みを見せぬ口ナン」と、服部は怪訝な表情を浮かべる。

なんかあやしこと思ひながらも、服部は口ナンにつられて行った。

着いたところは、同じく事務所の口ナンが寝室としている部屋だった。

「こやー あ…俺としたことが、こんな大事なこと忘れてたとは思わなかつた」

「だからなんやうねん?」

パシッと物が投げ渡される。

「やめやめ」

「は?」

「それ。やめつてこつてんの」

改めて手に、投げ渡されたものを見てみるとそれは包装された正方形の箱だった。

「いれくれるで…。なんでも?」

「…あ、やっぱ前忘れてんだ。お前、今田誕生日だね」

「くつ?…じゃあ「いれ…」

「うん。誕プレ」

「つづるせえ——（怒。蘭たちがいないから良かつたもので  
め人の隠し本名大声で晒してんじやねえよっ！――！」

「あ……すまん、（汗）つい、嬉しいで……」

そういう服部の照れ笑顔を見ながら、コナンはあやしくにやつぐ。

「じゃ、そんな嬉しいなら開けてみれば」

笑いを懸命にこらえて言い放つ。

「えついいんか」

これから馬鹿素直はおもしれえんだよな。

うん。いいつでんじやん。早く開けろよ、

工藤かそく、い、なぬ遠慮なく……」

びりびりと少しずつ包装紙を破り結構洒落たマグカップが入ってそうな大きさの箱を取り出す。

「ほら開けろって」

ג' עירם

そういうつて、服部が箱を開ける瞬間を俺は少しだけ見逃さないように目を凝らす。

## そして開けた瞬間：

『ハンツ！！！』

小さな小爆発とともにパンチが（おもぢやの）服部の顔面に直撃する。

「いだ！！！」

身体を折り腹を抑え涙が出るほど爆笑する「コナン」。

からうじで片手に箱を持つたまま、顔面を抑える服部

「ははははははつ！……おまつ……はははははつ！……かつ、顔が  
つ……！」

もうついにはしゃがみ込んで、カーペットをダンダンとたたいて笑うコナン。

「でも、上りな感じがいい」

「くつ…くど…・・・おま…なんぢゅー」とあるねん…・・・」  
かもこれ、クッショニやないし…」

「せつせつせつせつせつ、わりに…そこまで考えてなかつたつせつ  
はははーでも中つ、ははつ中見てつ」

くうへつと痛すきて怒りにならん怒りをじりぐれながら、中を見てみる

「中…何もないやないか」「」

内心怒りMAXの服部は爆笑中のコナンを睨みつける

「ちつははつちがつ…せははつその中じやなくてつ。そのパン  
チグロつはははつグローブのとこつ、あんだろつ開けるとこつ  
はははつそい、開けてつその中にくつふつはははつ」

聞きこくい分の中から要點を絞り出して、それを繰り返す

「グローブなんといやとお~」

びよびよばねから伸びているかつたい赤グローブを見ると確かに開  
きわつな所がある

「あ、これかい」

「せつ、はははつ。わつわつ…せははつ」

「んー…ちよお開けにくしなあて…工藤いい加減その笑い止めや  
せりふ」

いまだに爆笑してゐるコナンに腹が立ち声をかける。

「ひ―――つわづつ、まほひ…まほひ、ま――つ、腹いてぇ」

「血業自得やないかい…あほやな。おひ開いたでぇー。」

そしてその中から出てきたものは…

「…時計やないか・・・・・」

「んひ、ああ。ほひ、おまえ、前電話したときこ、事件がらみで時計壊れたつってたり?だから」

「ああ…覚えとつてくれたんや…。ほひ、おおきにな。」

なんだかんだで優しこといひがちやことあるやつなんやつて少し見直す。

「は、なんだ。お前案外簡単に機嫌直つたな」

笑いすぎて痛くなつたお腹をさすりながら、腹部に囁く。

「やう、あれはまちよお頭に来たけじなあ、でももいらだもんは嬉しかつたし…」

「し…なんだよ~。」

問いつくるコナンを見てニッと笑う。

「お前こ、もうひえて、俺、今、最高やで。」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4081q/>

---

最高やで。

2011年1月28日03時44分発行